

ワーキンググループのH25年度までの目標

○ 物質収支の把握、精度向上

- ① 流入(原単位)負荷量把握の精度向上
(斐伊川連続調査、原単位精査)
- ② 湖底と湖水の物質収支から出入り量の検証
(湖心高頻度調査、底質調査 等)
- ③ シミュレーションモデルの構築、活用
(塩分収支(流動)、水質の再現性向上)



- シミュレーションモデルによる施策評価等。
- 第6期保全計画へ具体的施策を反映。

「物質収支の把握」のイメージ

